

自主夜間中学 遠友塾20年の集い

2009年09月21日



20年の集いで、体験を発表する伊藤フサ子さん(写真中央)＝札幌市中央区

■学ぶ喜び 遠友塾20年 札幌

様々な事情で学校へ行けなかった人たちのために90年にできた「札幌遠友塾自主夜間中学」(工藤慶一代表)の開塾20年を記念した集いが20日、札幌市の市教育文化会館で開かれ、約160人が集まった。受講生らが体験を発表し、学ぶ喜びを語った。

不登校だった経験のある伏見裕子さん(24)は遠友塾と出会って自分が変わったとし、「この場所と、この場所が出会わせてくれた皆さんに感謝したい」と話した。

車いすで通塾する伊藤フサ子さん(62)は「自分の名前と住所を書きたいという思いで続けてきた。今度は漢字をおぼえたい」と語った。

同塾は授業で旧市民会館や市教育文化会館を使ってきたが、今春から市立向陵中の校舎を使えるようになった。

集いに出席した同中の植村敏視(としみ)校長は「皆さんの姿を見ると、教育の原点を見ているような思いを抱く。校舎も喜んでいと思う」と話した。